

成田市制施行 70 周年記念

令和 6 年度

成田市中学生議会
会議録

令和 6 年 8 月 21 日（水）開会

成田市

成田市教育委員会

目 次

●質問一覧（発言順）	2
●議事日程	3
●出席した中学生議員	4
●説明のため出席した者	4
●職務のため出席した中学生議会事務局職員	5
●開会及び開議の宣告	6
●議長選挙	6
●市長あいさつ	8
●議席の指定	9
●会議録署名議員の指名	9
●会期の決定	9
●代表質問（各校質疑応答）	10
①下総みどり学園	10
②遠山中学校	13
③久住中学校	16
④成田中学校	20
⑤西中学校	22
◎再開及び議長の交代	26
◎代表質問（各校質疑応答）	26
⑥吾妻中学校	26
⑦中台中学校	30
⑧公津の杜中学校	33
⑨大栄みらい学園	36
⑩成田高等学校附属中学校	39
⑪玉造中学校	42
●市長の講評	45
●閉会の宣告	46

質問一覧（発言順）

1. 下総みどり学園・・・ 市中心部以外の開発計画について
2. 遠山中学校・・・ 国際理解を促進する取り組みについて
3. 久住中学校・・・ 将来の教育について
4. 成田中学校・・・ 耕作放棄地について
5. 西中学校・・・ 交通施策について
6. 吾妻中学校・・・ 観光施策について
7. 中台中学校・・・ 防犯・安全対策について
8. 公津の杜中学校・・・ 持続可能で地球環境に優しいまちづくりについて
9. 大栄みらい学園・・・ スポーツをする機会の提供について
10. 成田高等学校附属中学校・・・ 観光による魅力的なまちづくりについて
11. 玉造中学校・・・ 防災対策について

議事日程について

このことについて、下記のとおり定めましたので通知します。

成田市中学生議会議長

記

議事日程第 1 号

令和 6 年 8 月 21 日午後 1 時 30 分開議

第 1 議席の指定

第 2 会議録署名議員の指名

第 3 会期の決定

第 4 代表質問

○出席した中学生議員（23 名）

まつい だいち 松居 大地 議員	下総みどり学園 8 年生	ねもと りり 根本 莉里 議員	下総みどり学園 8 年生
もりた かなで 森田 奏 議員	遠山中学校 2 年生	もりもと のぞみ 森元 望 議員	遠山中学校 3 年生
だいとく じゅんや 大徳 純也 議員	久住中学校 2 年生	ひがき ゆう か 檜垣 侑花 議員	久住中学校 2 年生
おおき はやと 大木 颯土 議員	成田中学校 3 年生	おおだけ あかね 大竹 茜音 議員	成田中学校 3 年生
おおつか あかり 大塚 明里 議員	成田中学校 3 年生	ちば え れ な 千葉 愛玲奈 議員	西中学校 3 年生
しもだ ゆう ま 下田 悠真 議員	西中学校 3 年生	きみじま こうせい 君島 幸晟 議員	吾妻中学校 2 年生
ながおか りょうた 長岡 綾汰 議員	吾妻中学校 2 年生	ぬまた ゆう と 沼田 悠叶 議員	中台中学校 2 年生
さとう さ な 佐藤 沙奏 議員	中台中学校 2 年生	つじ う み 辻 宇心 議員	公津の杜中学校 2 年生
やまもと てるふみ 山本 晃史 議員	公津の杜中学校 3 年生	つばき そう ま 椿 壮馬 議員	大栄みらい学園 8 年生
ながたけ まさと 長竹 将大 議員	大栄みらい学園 8 年生	こうの あ お 河野 蒼央 議員	成田高等学校 附属中学校 2 年生
かさしま ゆ に か 笠島 唯仁香 議員	成田高等学校 附属中学校 2 年生	てらさき りん か 寺崎 鈴華 議員	成田高等学校 附属中学校 2 年生
かつた とも き 勝田 智稀 議員	玉造中学校 2 年生		

○説明のため出席した者

市 長	小 泉 一 成	副 市 長	関 根 賢 次
副 市 長	福 島 眞 司	教 育 長	関 川 義 雄
企画政策部長	石 毛 直 樹	総 務 部 長	野 村 吉 男
財 政 部 長	篠 塚 岳 史	空 港 部 長	米 本 文 雄

シティプロモーション 部 長	伊 藤 善 光	市民生活部長	谷 平 裕 美
環 境 部 長	岩 沢 宏 樹	福 祉 部 長	堀 越 正 宏
こども未来部長	宮 崎 恵 美 子	健康増進部長	高 橋 一 夫
経 済 部 長	鈴 木 浩 和	土 木 部 長	富 澤 雅 明
都 市 部 長	山 崎 勲	水 道 部 長	堀 越 千 里
会 計 管 理 者	久 能 広 司	監 査 委 員 事 務 局 長	内 田 啓 子
農 業 委 員 会 事 務 局 長	井 上 裕 二	教 育 部 長	小 川 雅 彦
教育部担当次長	藤 崎 清	消 防 長	松 尾 芳 幸
消防本部次長	保 立 和 彦	秘 書 課 長	菅 谷 友 則

○職務のため出席した中学生議会事務局職員

市民協働課長	平 岡 尚 子	教育指導課長	三 村 洋 一
市 民 協 働 課 市 民 相 談 室 長	森 川 暁	教育指導課指導主事	那 須 智 史
市民協働課副主幹	瀬 尾 宜 志	市民協働課主任主事	漢 那 香
議会事務局副主査	川 島 裕 貴	議会事務局副主査	齋 藤 和 輝

◎開会及び開議の宣告

〔開始のブザー〕

○臨時議長（市民協働課長） 私は、市民協働課長の平岡と申します。議長が選出されるまでの間、臨時に議長の職務を行いますので、よろしくお願いいたします。

◎議長選挙

○臨時議長（市民協働課長） これより、議長の選挙を行います。議場の閉鎖を命じます。

〔議場閉鎖〕

ただ今の出席議員数は 23 名です。中学生議会では、前半と後半でそれぞれ 1 名の議長に議事進行を行っていただきますので、2 名の議長を選出いたします。投票用紙を配付いたします。

〔投票用紙配付〕

投票用紙を配布します。配付漏れはありませんか。

〔各議員より「なし」の発声あり〕

配付漏れなしと認めます。投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

異状なしと認めます。念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載のうえ、点呼に応じて順次投票願います。点呼を命じます。

〔点呼〕

〔投票〕

投票漏れはありませんか。

〔各議員より「なし」の発声あり〕

投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。議場の閉鎖を解きます。

〔議場開場〕

これより開票を行います。立会人に遠山中学校 森元 望議員、中台中学校 佐藤 沙奏議員を指名いたします。両議員の立ち会いをお願いいたします。

〔開票〕

選挙の結果を報告いたします。

投票総数 23 票、これは、先程の出席議員数に符合しております。

そのうち有効投票 23 票

無効投票 0 票

有効投票中 成田高等学校附属中学校 河野 蒼央 議員 11 票

成田中学校 大木 颯士 議員 12 票

以上のとおりでございます。

よって、前半の議長は、成田高等学校附属中学校、河野蒼央議員が、後半の議長は、成田中学校、大木颯士議員が当選されました。当選されました河野蒼央議員と大木颯士議員が議場におられますので、本席より当選の告知をいたします。

以上をもちまして、私の職務は終了いたしました。ご協力をいただきありがとうございました。ここで議長と交代いたします。河野蒼央議長は、議長席にお着き願います。

〔新議長着席〕

(午後 1 時 38 分)

○議長(河野蒼央議員) 前半の議長を務めさせていただきます成田高等学校附属中学校 2 年の河野蒼央です。中学生議会の円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

本日の出席議員数は、23 名であります。定足数に達しておりますので、これより「成田市制施行 70 周年記念 令和 6 年度成田市中学生議会」を開会いたします。

(午後 1 時 40 分)

◎市長あいさつ

○議長（河野蒼央議員） 議事に入る前に、小泉市長のあいさつをお願いいたします。

小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 本日ここに、「成田市制施行 70 周年記念 令和 6 年度成田市中学生議会」を招集したところ、貴重な夏休みの期間にもかかわらず、中学生の皆さんにご出席をいただき、誠にありがとうございます。

市制施行 50 周年に当たる平成 16 年に初めて開催された中学生議会は、今回で 20 回目を迎える歴史ある行事の一つとなっております。

今回は、本市が本年、市制施行 70 周年を迎えたことから、これを記念する行事として、中学生の皆さんから直接、市制施行 70 周年記念の基本テーマである「人を繋ぐ 歴史を繋ぐ 未来へ繋ぐ みんなの成田」に関連した質問や意見をいただき、今後の市政運営に反映していくため開催いたします。

こうして中学生議員の皆さんの顔を拝見いたしますと、これから始まる中学生議会に対する、熱い意気込みが伝わってまいります。

この広い議場で、意見を述べることは、緊張するかもしれませんが、将来の成田市、そして日本を担っていく、若い皆さんの要望や、柔軟な感性から出された意見をお伺いしたいと思いますので、大きな声で、自信をもって発言していただくことをお願いいたします。

そして、市議会の雰囲気を感じながら仲間の中学生議員からの質問や、市からの答弁を聞くことで、市政をより身近なものとして感じ、社会への関心や参画意識を高めてもらう機会にさせていただくことを願っております。

結びに、中学生議会が、皆さんにとりまして、実りの多いものとなりますことをお祈り申し上げ、私からの挨拶といたします。

（午後 1 時 42 分）

◎議席の指定

○議長（河野蒼央議員） これより、議事日程に入ります。

日程第 1、議席の指定を行います。各議員の議席は、ただ今ご着席の議席を指定いたします。

（午後 1 時 43 分）

◎会議録署名議員の指名

○議長（河野蒼央議員） 次に、日程第 2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、久住中学校 檜垣 侑花議員及び吾妻中学校 長岡 綾汰議員、以上 2 名を指名いたします。

（午後 1 時 44 分）

◎会期の決定

○議長（河野蒼央議員） 次に、日程第 3、会期の決定を議題といたします。お諮りいたします。今議会の会期は、本日 1 日としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔各議員より「異議なし」の発声あり〕

○議長（河野蒼央議員） ご異議なしと認めます。よって今議会の会期は、本日 1 日とすることに決定しました。

（午後 1 時 45 分）

◎代表質問（各校質疑応答）

○議長（河野蒼央議員） 次に、日程第4、各中学校からの代表質問を行います。

●下総みどり学園

○議長（河野蒼央議員） 初めに、下総みどり学園 松居大地議員及び根本莉里議員。

〔下総みどり学園 議員2名 登壇〕

○松居大地議員 私は、下総みどり学園8年の松居大地です。

成田市の中心部以外の開発計画についてお伺いいたします。

成田市には日本の空の玄関口である成田国際空港があり、空港をはじめとする中心地域には、大型商業施設や大手飲食チェーン店など、多くの店舗があります。家族や友達と買い物や食事を楽しんでいると、とても便利だと思いますし、市の活気や魅力を体感することができます。

一方で、中心部から遠い地区については、商業施設や飲食店が少なく、活気や住みやすさに差があるのではないかと感じます。もちろん、そのような店舗が少ない分、広大で肥沃な土地を生かした農業の充実による特産品や、豊かな自然の景勝など、市の中心部から遠い地区にもたくさんの魅力があります。

しかし、買い物をしたい時は、車で遠くまで行かないといけなかったり、テレビのCMでよく目にするフードデリバリーサービスが配達区域外で利用できなかったりという不便な現状を考えると、もっと発展しても良いのではないかと考えます。

そこで、お伺いいたします。市の中心部から遠い地区について、商業施設の誘致等の開発計画が現段階であるのか。また、今後計画していくのか、お聞かせください。

以上で質問を終わります。

○議長（河野蒼央議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 松居大地議員の市中心部以外の開発計画についてのご質問にお答え

いたします。

市の中心部から遠い地区の商業施設の誘致等の開発計画についてであります。ショッピングモールやスーパーマーケットなどの商業施設については民間事業者が、商圈人口や周辺の商業施設の立地状況、道路や鉄道等の交通事情などを考慮し、入念な用地選定を行い、開発計画を進めるものですが、市の中心部から遠い地区については、これらの要件を満たさないことから、出店が進まないところであり、現在具体的な開発計画也没有ありません。急速な少子高齢化や人口減少が進む我が国において、市の中心部から遠い地区では、商業施設や飲食店をはじめとする生活利便施設が少なくなっていることが全国的な課題となっております。そこで、重要なのが道路インフラの整備とともに、路線バスや鉄道といった公共交通機関であり、中心市街地や鉄道駅周辺に商業施設などの生活利便施設を集約し、こうした拠点間を地域の公共交通で結ぶことで、生活の利便性を確保していくことが今後のまちづくりに必要と考えております。

一方で、本市においては、成田空港のB滑走路の延伸、C滑走路の新設などを中心とした空港の更なる機能強化が進展するとともに、首都圏と成田空港を最短で結ぶ北千葉道路や、圏央道といった広域的な交通ネットワークの整備が進められており、地域間移動の活性化や沿線を中心とした地域の活性化など、多くの効果が期待されます。こうした他の地域にはない本市ならではの特性を、本市の持続的な発展につなげていくため、様々な企業誘致や新たなまちづくりの推進により活気が本市の隅々まで届くような施策を進めてまいりたいと考えております。

なお、松居議員のご質問にありましたように、市の中心部から遠い地域の里山や水辺などの豊かな自然は、その地域ごとの魅力として、良好な地域環境を創出しております。本市の発展と市民の皆様の住みやすさを両立していくため、都市機能の充実と自然環境との調和を図り、今後も地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでまいります。

○議長（河野蒼央議員） 根本議員。

〔下総みどり学園 根本議員 自席で起立〕

○根本莉里議員 下総みどり学園8年の根本莉里です。ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田市の開発計画について考える際、公共交通機関の拡充について併せて考えていくことも大切だと考えます。移動手段が豊富にある方が、気軽に出かけることができると思うからです。私が住んでいる地区の最寄り駅であるＪＲ滑河駅は、通勤・通学の時間帯を除くと１時間に１本しか電車が来ません。コミュニティバスも利用できますが、やはり本数が少なく、思うように出かけられないのが現状です。

そこで、伺いたいします。市の中心部から遠い地区について、さらなる公共交通機関の拡充の計画が現段階であるのか。また、今後計画していくのか、お聞かせください。

○議長（河野蒼央議員） 山崎都市部長。

〔都市部長 山崎勲 自席で起立〕

○山崎都市部長（山崎勲） 根本莉里議員の公共交通機関の拡充についてのご質問にお答えいたします。

本市では、現在、鉄道、民間路線バス、タクシー及び市民の生活交通手段を確保するためのコミュニティバスといった、様々な公共交通サービスを展開しているほか、高齢者の外出支援として、タクシー車両を利用した事前予約制の乗り合い型交通サービスであるオンデマンド交通を運行しております。

しかしながら、近年、全国的に問題となっている運転士不足は、本市においても例外ではなく、本年４月からコミュニティバスの減便等をせざるを得ない状況となるなど、公共交通を取り巻く環境は、これまで以上に厳しいものとなっております。

このような状況の中、令和３年１２月に策定した、公共交通のあり方や方向性を示す成田市地域公共交通計画では、基本方針の一つとして「まちづくりに対応した公共交通ネットワークの形成」を掲げており、中心市街地では公共交通サービスを維持しつつ、中心部から離れた地域では、その地域の実情に応じた効率的な運行形態や運行方法等の検討を行い、持続可能な地域公共交通の構築を図っていくこととしております。

現時点では、市内において公共交通機関の拡充といった計画はありませんが、市の中心部から遠い地区においても、コミュニティバスや民間路線バス等の様々な公共交通サービスが互いに補完し合い、現状の交通利便性を確保できるよう、交通事業者や利用者といった関係者と連携し、より効率的な公共交通体系の構築に向けて取り組んでまいります。

○議長（河野蒼央議員） 根本議員。

〔下総みどり学園 根本議員 自席で起立〕

○根本莉里議員 ご答弁ありがとうございました。

私が思い描く未来の成田市は、地元の人はもちろん、国内外の多くの人が足を運んでみたくなるようなスポットがもっと増え、利便性の高い公共交通機関を使い、誰もが買い物や観光を手軽に楽しめる、そんな市です。成田市全体がさらに発展して、活気にあふれる様子を想像すると、とてもワクワクします。

私はあと１年半程で、義務教育の過程を終え、そう遠くない未来に、社会人となります。成田市で育ち、学んだことや、養ってきた力を生かして、成田市のさらなる発展に貢献していきたいと思います。

これで下総みどり学園からの質問を終わります。

（午後１時５４分）

●遠山中学校

○議長（河野蒼央議員） 次に、遠山中学校 森田奏議員及び森元望議員。

〔遠山中学校 議員２名 登壇〕

○森田奏議員 私は、遠山中学校２年の森田奏です。

成田市の国際理解を促進する取り組みについてお伺いいたします。

私は、普段の拡充英語の時間では、トピックに合わせたチャットなどのコミュニケーション活動が多く取り入れられていると感じています。成田市の中学校では、このように、普段の英語の授業に加えて、拡充英語の時間が確保されています。これは成田市独自の取り組みであると知り、市内に空港があるためだと考えました。日本の空の玄関口である成田市で、英語力の向上に向けたこのような施策は、大きな意味があると考えます。

そこでお伺いいたします。現在行われている拡充英語の取り組みによって、他の市町村と比べ、どの程度の英語力の向上が見られているのか。また、英語力の中でも、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」のどの分野における能力の向上が見られるのか、お答え願います。

以上で質問を終わります。

○議長（河野蒼央議員） 関川教育長。

〔教育長 関川義雄 登壇〕

○教育長（関川義雄） 森田奏議員の国際理解を促進する取り組みについてのご質問にお答えいたします。

まず、本市の拡充英語の取り組みによって他の市町村と比べ、どの程度の英語力の向上が見られているのか、についてであります。本市の英語教育における拡充英語の取り組みは、平成 15 年に、「国際教育推進特区」として内閣総理大臣から認定を受け、小学校の全学年に英語科を設置するとともに、中学校の全学年に拡充英語科を設置したことに始まります。

拡充英語科の導入により、通常年間 140 時間の英語科を、中学校 1 年生では 15 時間、2・3 年生では 18 時間増やすとともに、全ての学校に外国人英語講師を配置し、増加した時間を活用して自己表現活動を中心とした授業を行っております。これは、小学校段階で培われた、「英語に慣れ親しみ、物おじせず外国の人々と接する態度」を中学校でさらに伸ばし、これまでに学んだ学習内容を日常生活の中で活用することを目的としております。また、外国の文化を理解しようとする態度の育成も図っており、これらは、他の市町村では行っていない本市独自の学習内容となっております。

このような取り組みを進めることで、昨年度の成田市学力調査では、英語科の平均正答率は、中学校 1 年生で全国が 54.3 パーセントに対し、本市は 55.3 パーセント、中学校 2 年生で全国が 50.1 パーセントに対し、本市は 53.5 パーセントであり、どちらの学年も全国平均を上回っております。

また、本市が独自に行っているアンケート調査の結果では、小学校 6 年生の 84 パーセント、中学校 3 年生の 72 パーセントの児童生徒が「英語の学習が好きである」または「どちらかといえば好きである」と回答しており、これは、昨年 4 月に実施した全国学力・学習状況調査、質問紙調査の全国平均値より 10 ポイント以上高い割合であり、小学校 1 年生から英語に慣れ親しむとともに、中学校拡充英語で培ったことが着実に実を結んでいるといえます。

次に、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」のどの分野における

能力の向上が見られるのか、についてであります。昨年度に実施した成田市学力調査では、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域において、全国平均値とほぼ同等から2ポイント程度結果が上回っていることから、どの分野においてもバランスよく技能が身に付いているといえます。一方、中学校1年生における「書くこと」の領域では、全国平均値に対して、0.3ポイント下回っており、課題が見られました。「話すこと」の領域における調査は、昨年度の全国学力・学習状況調査において、タブレット端末を使用し実施しました。こちらは、各学校における実施日が異なるため推計値となりますが、「話すことのやりとり」においては、約25ポイント、「話すことの発表」においては、16ポイント全国平均値を上回っており、コミュニケーション能力の育成を重視した本市の英語教育が確実に成果を挙げているといえます。

教育委員会といたしましては、子どもたちが英語によるコミュニケーションにより相手に思いを伝えることができる喜びを味わい、ますます英語が好きな子どもたちを育成することができるよう小学校の英語教育と、中学校の拡充英語科の充実に努めてまいります。

○議長（河野蒼央議員） 森元議員。

〔遠山中学校 森元議員 自席で起立〕

○森元望議員 私は、遠山中学校3年の森元望です。ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。成田市が行っている成田市多文化交流フェスティバルについてお伺いいたします。このイベントでは、様々な国や地域の文化の体験や民族衣装の試着、料理が楽しめるなど魅力的な催しとなっています。市のホームページでは、2月に行われた第1回の日時とポスターが掲載されていますが、第2回以降の実施に関してはどのように考えているのか、お答え願います。

○議長（河野蒼央議員） 伊藤シティプロモーション部長。

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で起立〕

○シティプロモーション部長（伊藤善光） 森元望議員の多文化交流フェスティバルについてのご質問にお答えいたします。

本市では、外国人と日本人が交流し、互いの文化について知識を深めるとともに、互いに文化や価値観を認め合い、多文化共生の意識の啓発・醸成を図ることを目的に、本年2

月 17 日に「第 1 回成田市多文化交流フェスティバル」を開催しました。当日は、日本を含む世界各国の伝統や文化の紹介として踊りや音楽の披露、パネル展示、民族衣装の試着、料理の販売を行うとともに、市で暮らす外国人向けに、ごみの出し方や災害時の対応、病院のかかり方などの生活に役立つ情報を本市職員などが分かりやすく説明するブースを設けたところ、約 800 人の参加があり、大変好評を博したところであります。

第 2 回につきましては、来年 2 月に中央公民館での開催を計画しているところであり、内容につきましても、第 1 回を検証し、さらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

今後も、多文化交流フェスティバルをはじめとした多文化共生の推進に積極的に取り組んでまいります。

○議長（河野蒼央議員） 森元議員。

〔遠山中学校 森元議員 自席で起立〕

○森元望議員 ご答弁ありがとうございます。私は、成田市には老若男女、国籍問わず、誰でも参加しやすい様々なイベントが多いと感じます。

成田市が行っているイベントのホームページでは、括弧書きで、ひらがな表記を記載していたり、見やすく分かりやすいデザインが書いてある記事もあります。成田市のこのような配慮が、海外の観光客も安心して訪れることができるのだと思います。

これからも学校や地域のイベントに積極的に参加して、もっと成田市の良いところを知っていったらと思います。

これで遠山中学校からの質問を終わります。

（午後 2 時 04 分）

●久住中学校

○議長（河野蒼央議員） 次に、遠山中学校 大徳純也議員及び檜垣侑花議員。

〔久住中学校 議員 2 名 登壇〕

○大徳純也議員 私は、久住中学校 2 年の大徳純也です。

成田市の将来の教育についてお伺いいたします。

私たちが暮らしている久住地区は、現在、人口が増えつつあります。私が卒業した久住

小学校も児童数の増加に伴い、本校舎に加えて、新たにプレハブ校舎が設置されました。しかし、将来その人口は減少すると予想されます。必要となり設置されたはずの施設も、人口が少なくなると使用回数が減り、管理が難しくなることが考えられます。また、小学校にあるようなプレハブ校舎は使用されることがなくなってしまうと考えられます。

そこで、伺いたいします。将来、人口が減少した地域にある公民館などの公共施設の活用はどのように考えていますか。近隣に住む住民が少なくなったとしても残すのか、お聞かせください。

以上で質問を終わります。

○議長（河野蒼央議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 大徳純也議員の将来の教育についてのご質問にお答えいたします。

まず、将来、人口が減少した地域にある公民館などの公共施設の活用についてであります。公共施設は、市民の皆様に公共サービスを提供するために設置することから、市全体から見た利用状況や長期的な人口の見通しなどを考慮し、規模や配置を決定しています。また、公共施設の活用にあたりましては、立地する地域の状況のほか、建物の老朽化、利用の状況、運営コスト、将来の需要などを適切に把握し、検討することが必要であると考えております。

人口が減少した地域にある公共施設の活用にあたりまして、それらの要素を総合的に分析した上で、施設を継続して利用すべきか、または、見直すべきかについて検討し、見直すべきとした公共施設につきましては、他の用途への変更や民間事業者による利用などを含めた方向性を判断してまいります。

なお、人口が減少した地域における公民館などの公共施設のあり方についてのご質問につきましては、教育長よりご答弁申し上げます。

○議長（河野蒼央議員） 関川教育長。

〔教育長 関川義雄 登壇〕

○教育長（関川義雄） 私からは、人口が減少した地域における公民館などの公共施設のあり方についてお答えいたします。

本市では、地域住民の最も身近な学習拠点として、また、地域住民をはじめとした交流の場として、人づくり・つながりづくり・地域づくりといった、地域における社会教育活動の場として、久住公民館をはじめ、市内各地区に 13 の公民館を設置しており、各公民館では、市民が組織的に行う自主的な学びの支援のほか、多様化する学習課題に応えるため、各種講座などを実施しております。

現在、いずれの公民館も建設から長い年月が経過し老朽化が進んでいることから、今後、利用状況などを踏まえながら施設の改修を実施するとともに、更新等を行う際には、近隣の公共施設との機能の集約化や複合化を図るなど、人口減少時代の新しい地域づくりに向け、施設の利用拡大が図れるよう検討してまいります。

○議長（河野蒼央議員） 檜垣議員。

〔久住中学校 檜垣議員 自席で起立〕

○檜垣侑花議員 私は、久住中学校 2 年の檜垣侑花です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

子どもたちの放課後の過ごし方についてお伺いいたします。私は、小学生の頃、学童に通っていました。学童に通っていなかった子は公園や友達の家などで遊んでいたりと、習い事に行ったりする子もいました。しかし、今後共働きの家庭が増える中で、習い事への送迎が難しくなることが考えられます。

そこで、放課後に学校の施設などを利用し、様々な体験や活動を行えるようにすることで、送迎などの親の負担も軽減することができるのではないかと考えます。このような計画は成田市でも考えられているのか、お聞かせ願います。

○議長（河野蒼央議員） 小川教育部長。

〔教育部長 小川雅彦 自席で起立〕

○教育部長（小川雅彦） 檜垣侑花議員の放課後に学校の施設などを利用した多様な体験や活動を行うことについてのご質問にお答えいたします。

教育委員会では、小学生を対象とし、放課後や週末等に小学校の余裕教室などを活用して、地域の方がコーディネーターとなり、月に 2 回程度、放課後子ども教室を開催しております。この取り組みは、子どもたちに向け様々な体験活動などを実施することにより、

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していくものです。現在 8 校で実施しておりますが、より多くの小学校区で実施できるよう、今後もコーディネーターの発掘に努めてまいります。

○議長（河野蒼央議員） 宮崎こども未来部長。

〔こども未来部長 宮崎恵美子 自席で起立〕

○こども未来部長（宮崎恵美子） 学校の施設のほか、子どもたちが放課後に過ごすことができる場所といたしましては、子ども館 1 階において、小学生から高校生までを対象とした、ふれあいひろばを開設しており、遊び道具の貸出しやイベントの実施など、様々な年齢の子どもたちが交流できる場となっております。ふれあいひろばにつきましては、本年度から開館日数を拡大し、毎月第 3 水曜日と年末・年始以外は、毎日午後 7 時まで開館しており、放課後や休日の都合の良い時間に合わせて、ご利用いただくことができます。

また、長沼保育園内には、小学生以上が利用できる「福沢諭吉記念こども館」があり、遊びや学習を行える場所となっております。

本市といたしましても、子どもたちが成長していく過程において、安心して過ごすことができる居場所があることは、大変重要であると認識しておりますことから、現在、策定を進めている、「成田市こども計画」の中で、子どもの居場所づくりを推進するための施策について検討してまいります。

○議長（河野蒼央議員） 檜垣議員。

〔久住中学校 檜垣議員 自席で起立〕

○檜垣侑花議員 ご答弁ありがとうございました。

私は将来、成田市の子どもの好きなことを、家庭の事情などで、諦めることがない市にしていきたいです。また、幼い頃から英語を学ぶことによって、コミュニケーション能力や、英語力が高い市にし、観光客が安心できる市にしていきたいです。

これで久住中学校の質問を終わります。

（午後 2 時 14 分）

●成田中学校

○議長（河野蒼央議員） 次に、成田中学校 大竹茜音議員及び大塚明里議員。

〔成田中学校 議員 2 名 登壇〕

○大竹茜音議員 私は、成田中学校 3 年の大竹茜音です。

成田市の耕作放棄地についてお伺いいたします。

成田市を含め、全国では、昭和 50 年頃から現在まで耕作放棄地の面積が増加し続けています。このままでは、耕作放棄地が増え続けていき、病虫害や鳥獣被害の発生、雑草の繁茂、用排水施設の管理への支障などの被害が考えられます。

私は、より住み良い成田にするために、このような問題に対し、農地としての再開発や公共設備としての土地の再利用をすることが大切だと思います。また、長期的に土地を維持するためにも、このような問題に対して、様々な人に興味を持ってもらい、次の世代へと繋げていく必要があると思います。

そこで、耕作放棄地の解消策についてお伺いいたします。現在、成田市では耕作放棄地を解消するための活動を模索しているとお聞きしましたが、実際に今現在どのような活動を実施し、検討しているのか、その取り組みについてお聞かせください。

以上で質問を終わります。

○議長（河野蒼央議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 大竹茜音議員の耕作放棄地を解消するための取り組みについてのご質問にお答えいたします。

耕作放棄地につきましては、農業従事者の高齢化、後継者不足などにより農地の維持管理が難しいため、増加傾向に歯止めがかからない状況が続いております。こうしたことから、本市では、昨年度から地域農業の将来のあり方や農地の効率的かつ総合的な利用を目的とした「地域計画」の策定に着手しており、農業集落を市内 10 地区に分け、地域の方々をはじめ、農業委員会、千葉県、JA、土地改良区といった関係機関との話し合いにより計画の策定を進め、本年度中には全地区における地域計画の策定を予定しております。

この地域計画では、農地ごとに概ね 10 年後の耕作者を定め、将来の農地利用の姿を明

確化した「目標地図」を作成し、耕作者への農地の集積、集約化などを進め、効率的に農作業を行える環境を整えることで耕作放棄地の発生防止や解消に努めることとしております。

また、農地や農業用施設は、自然環境の保全や良好な景観の形成、洪水の防止といった多面的機能を有しており、これらの維持・発揮を図るため、本市では農業用水路の泥上げやため池の草刈り、農道や水路の補修など、地域ぐるみで農地の適切な保全管理を行う共同活動に対し、補助金の交付による支援を行っております。この補助金の交付団体につきましては、令和４年度は 29 地区、令和５年度は 31 地区、令和６年度においては 32 地区と徐々に増加しており、それぞれの地区の農地の保全管理に努めているところであります。

本市といたしましても、今後もこれらの取り組みについて広く周知を図るとともに、農業センター、JA などといった関係機関と連携して事業を推進することで、農地の受け手の確保や保全管理を行い、耕作放棄地の発生防止と解消を図ってまいります。

○議長（河野蒼央議員） 大塚議員。

〔成田中学校 大塚議員 自席で起立〕

○大塚明里議員 私は、成田中学校 3 年の大塚明里です。ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私たちは日々の生活で、耕作放棄地やその解消策について知る機会が少ないので、実際の案があるのであれば、周知をしてみてもはどうでしょうか。そうすることで、私たち中学生世代も耕作放棄地について、興味や関心を持つことができるのではないのでしょうか。

そこで、伺いたいします。耕作放棄地の解消策として、耕作放棄地を利用した農業体験や、土地の貸出事業の推進などを行ってみてはいかがでしょうか。

○議長（河野蒼央議員） 鈴木経済部長。

〔経済部長 鈴木浩和 自席で起立〕

○経済部長（鈴木浩和） 大塚明里議員の耕作放棄地を利用した農業体験や土地の貸出事業の推進などについてのご質問にお答えいたします。

耕作放棄地を利用した農業体験についてであります。本市では農業振興に関する様々な事業を実施しており、農業の魅力を知ってもらうための農業体験事業もその取り組みの

一つです。

このうち、若手農業者の指導のもと、日ごろ農業に接する機会の少ない市民の方を対象に、自然とのふれあいや収穫することの喜びを知ることができる「親子体験農業教室」では、こうした土地を農業青年団体が借り受け、市と連携しながら活用しております。

また、土地の貸出事業の推進につきましては、耕作放棄地などを含め、所有者から農地を借り受け、担い手である耕作者へ貸出しをする、「農地中間管理事業」を活用した農地の貸借を推進しており、農地の貸し手、借り手の双方に対し、市独自の補助金を交付することにより、本事業を活用した担い手への農地の集積を進めているところです。

本市といたしましては、引き続き農地の集積・集約化を推進することで、さらなる耕作放棄地の発生防止や解消に努めるとともに、農業体験の取り組みや農地の貸出しについて、これまで以上に広く周知を図ってまいりますので、これからも皆さんに興味、関心を持っていただきたいと思います。

○議長（河野蒼央議員） 大塚議員。

〔成田中学校 大塚議員 自席で起立〕

○大塚明里議員 ご答弁ありがとうございました。

私たちは日ごろから成田市の野菜を口にする機会が多くあり、いつも新鮮でおいしいと感じています。今の私たちにできることは、成田市の野菜などの農作物を、積極的に消費し、農業を活気づけることだと思います。これからも、農家の方に感謝の気持ちを持っていきたいです。

これで成田中学校からの質問を終わります。

（午後 2 時 23 分）

●西中学校

○議長（河野蒼央議員） 次に、西中学校 千葉愛玲奈議員及び下田悠真議員。

〔西中学校 議員 2 名 登壇〕

○千葉愛玲奈議員 私は、西中学校 3 年の千葉愛玲奈です。

成田市の交通施策についてお伺いいたします。

成田市の交通バスの減便や廃線が相次いでいます。私が使っていたバスも廃線となり、とても不便です。私の近所に足の不自由な高齢者がいらっしゃいます。成田市の交通施策を調べるにあたって、お話を直接伺いました。その方は、車での事故が怖いためバスを使いたいが、本数があまり多くないため、移動手段に困っているとおっしゃっていました。実際に困っているという事実があったことから、成田市のバスに対しての考えや取り組みを具体的に知りたいと思いました。

そこで、伺いたします。市のホームページに交通バスの減便や廃線は運転士不足が原因とあります。その点を踏まえ、総合計画「NARITAみらいプラン」を拝見した時に「魅力ある機能的なまちづくり」が達成できなくなってしまうのではないかと考えました。この問題について、市はどのようにお考えか、お答え願います。

以上で質問を終わります。

○議長（河野蒼央議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 千葉愛玲奈議員の交通バスの減便等に対する市の考えについてのご質問にお答えいたします。

運転士不足は以前から全国的な問題となっておりましたが、働き方改革関連法の施行などにより、本年４月から運転士の労働環境が改善された一方、労働時間が短縮化されたことで、運転士不足に一層拍車がかかることとなりました。このような、いわゆる「2024年問題」に対応するため、各バス事業者では運行内容の見直しを実施しており、本市においても、昨年７月には市内を運行する路線バスにおいて、路線の一部廃止や減便が行われております。また、本市が運行するコミュニティバスにつきましても、運転士不足の中で可能な限り運行を維持していくため、本年４月から、運行時間を短くするダイヤ改正を実施するなど、公共交通を取り巻く環境は、これまで以上に厳しいものとなっております。

このような状況の中、「NARITAみらいプラン」における基本目標の一つである「魅力ある機能的なまちづくり」における取組方針では、市民の交通利便性の向上を図るため、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築を目指すこととしております。今後は、既存の公共交通サービスであるコミュニティバスや民間路線バス、高齢者の外出支援として運

行している、タクシー車両を利用した事前予約制の乗り合い型交通サービスであるオンデマンド交通の持続可能な運行を図ることを基本としつつ、地域の課題やニーズを踏まえ、交通事業者をはじめとする関係機関との協議を進めてまいります。

さらに、本市のまちづくりの将来像を見据えた自動運転などの新技術や、一般のドライバーが自家用車で乗客を有料で運ぶサービス、いわゆるライドシェアなどの新しい移動手段のほか、情報や通信に関する技術、いわゆるＩＣＴを活用した新たなサービス導入の可能性も視野に入れ、地域ごとの特性に応じた公共交通のあり方や、サービスの提供方法などについて検討してまいります。

今後の地域公共交通をどのように維持・確保していくかについては、行政、交通事業者、利用者などが幅広く関係する課題でありますことから、引き続き、持続可能な地域公共交通の構築に向け、地域の方々の声を聴きながら関係者と連携して取り組んでまいります。

○議長（河野蒼央議員） 下田議員。

〔西中学校 下田議員 自席で起立〕

○下田悠真議員 ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。私は、西中学校３年の下田悠真です。

今後、バス運転士不足が進んでいくと、現在よりもバスの減便や廃線が深刻化すると考えられます。そこで、私は、若い年齢層の方々に向けたピーアールが必要と考えます。例えば、ＳＮＳを用いたバス運転手の仕事内容の紹介や、バス運転手の魅力の紹介などです。そうすることで、若い年齢層の方々からの関心を引くことができると考えます。市はバスの減便や廃線がこれ以上深刻化しないように、どのような対策をお考えか、お答え願います。

○議長（河野蒼央議員） 谷平市民生活部長。

〔市民生活部長 谷平裕美 自席で起立〕

○市民生活部長（谷平裕美） 下田悠真議員の交通バスの減便等への対策についてのご質問にお答えいたします。

警察庁が公表している「運転免許統計」によりますと、バスの運転に必要な、大型自動車第二種免許保有者の年齢別の割合において、４０歳未満の保有者はわずか４％となって

おり、このままでは運転士不足は一層深刻化していく心配があります。

各バス事業者では、ホームページなどでの運転士の募集や、大型二種免許の取得費用の助成を行うなど、運転士の採用に力を入れているところであり、本市におきましても、路線バスの維持・存続を図るため、本年1月1日発行の広報なりたにおいて、バスの積極的な利用を呼びかけつつ、運転士不足など路線バスの現状をお伝えする記事を掲載しました。

このような中、本市を運行する千葉交通株式会社において、最年少となる19歳のバス運転士が誕生したことがネットニュースで報じられるなど、運転士採用に向けた努力が実を結びつつあるものと受け止めております。

運転士不足の解消に向けては、積極的なピーアールや、中学生の皆さんをはじめ多くの方にご利用いただくことが重要と考えておりますので、どのような対策が効果的であるか、バス事業者や他の自治体などの取り組みも注視しつつ、関係者と連携して取り組んでまいります。

○議長（河野蒼央議員） 下田議員。

〔西中学校 下田議員 自席で起立〕

○下田悠真議員 ご答弁ありがとうございました。今後、少子化が進むことで、市の活力が低下し、税金の増加、交通面に支障が出ると考えられます。

それらを防ぐためには、中小企業の支援体制の強化や、今よりも交通面を良くすることが必要だと感じます。そうすることで、成田市はより活気のあるまちになると思います。今の私たちにできることは、成田市の課題について知ることだだと思います。そのため、学校の評議会などでも知る、考えるといった機会を設けるようにしたいと思いました。

これで西中学校からの質問を終わります。

（午後2時39分）

○議長（河野蒼央議員） ここで、暫時、休憩いたします。

前半の議事進行はここまでとなります。皆さん、ご協力いただきありがとうございました。

【休 憩】

◎再開及び議長の交代

〔開始のブザー〕

○事務局（市民協働課長） 中学生議會を再開するにあたり、議長の交代があります。

大木颯土議長は、議長席にお着き願います。

○議長（大木颯土議員） 後半の議長を務めさせていただきます成田中学校 3 年の大木颯土です。中学生議會の円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

（午後 2 時 50 分）

○議長（大木颯土議員） 再開いたします。代表質問を続けます。

●吾妻中学校

○議長（大木颯土議員） 吾妻中学校 君島幸晟議員及び長岡綾汰議員。

〔吾妻中学校 議員 2 名 登壇〕

○君島幸晟議員 私は、吾妻中学校 2 年の君島幸晟です。

成田市の観光施策について伺います。

私は、小さい頃から成田祇園祭で、山車を引いてきました。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行した後の昨年度の成田祇園祭でも山車を引いたのですが、海外からの観光客がたくさん訪れていたように感じました。

そこで、伺います。総合計画「N A R I T A 未来プラン」に日本の空の玄関口成田国際空港の立地を生かしたトランジットツアーの実施とありますが、市制施行 70 周年記念事業のテーマにもあるように、成田市は「人との繋がり」を基本テーマの一つとしています。これも含めて、観光客に長い滞在時間を有効活用し、「みんなの成田」の良いところを知ってもらうためにどのようなプランを考えているのかお聞かせ願います。ま

た、具体的にどのようなことを行っているのか、これから実施しようとしている計画はあるのか、お答え願います。

以上で質問を終わります。

○議長（大木颯土議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 君島幸晟議員の観光客の滞在時間を有効活用した観光施策についてのご質問にお答えいたします。

成田空港は、本市の魅力を発信する絶好の場であるとともに、観光客が滞在期間中、快適に観光を楽しむことにより、成田に良いイメージを持っていただくことがリピーターの獲得にもつながることから、魅力を感じる観光情報の発信と受入れ態勢の強化を図ることが大変重要であると認識しております。

このようなことから、これまでインバウンドに向けた取り組みとして、成田国際空港株式会社をはじめ、空港周辺市町とともに、「トランジット・アンド・ステイプログラム」を実施してまいりました。

このトランジット・アンド・ステイプログラムは、成田空港を利用するトランジット旅客や空港周辺ホテルに滞在している外国人宿泊者に対し、その滞在時間を有効に活用していただくとともに、成田空港周辺地域の魅力を知っていただくための周遊観光の促進を目的として、日本の自然や文化、ショッピングなどを体験できるボランティアガイドツアー5コース、セルフツアー6コース、ボランティアガイド同行バスツアー2コースの全13コースを提供しておりました。

しかしながら、これらのツアーに関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月以降は休止となっており、現在は、海外に向けたフェイスブックなどのSNSを活用した情報発信や、ボランティアガイド向けのメールマガジンの配信、セミナーの実施のほか、新たに航空会社のクルーを対象とした自然・文化・飲食の体験ツアーを検討しているところであります。

また、本市では、成田祇園祭、成田太鼓祭、成田伝統芸能まつり、成田弦まつりなど、一年を通して魅力ある様々な観光行事を開催するとともに、千葉県で唯一日本遺産に認定

されている「北総四都市江戸紀行」の構成要素の一つである「成田山門前の町並み」などの観光資源を活用し、滞在時間の延伸に向けた取り組みを推進しているところであります。

さらに、千葉県では、本年度、成田空港を利用する外国人観光客に対して、県内観光地の情報提供を行うための観光情報窓口を、成田空港第1ターミナル到着ロビーに設置し、観光パンフレットなどの提供やデジタルサイネージを活用した情報発信のほか、成田空港からの県内周遊を促進するため、空港を発着地とする県内観光ツアーの開発に向けたモニターツアーの実施を予定しております。

このため、本市では、成田空港を利用する観光客が、本市を通過せずに周遊していただけるよう、本市の地域資源を活用したモデルコースの開発など、積極的に千葉県や空港周辺市町などと連携して取り組んでまいります。

○議長（大木颯士議員） 長岡議員。

〔吾妻中学校 長岡議員 自席で起立〕

○長岡綾汰議員 私は、吾妻中学校2年の長岡綾汰です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田国際空港を擁する成田市は、総合計画「NARITAみらいプラン」において、「おもてなしのまち成田」を掲げており、訪れる人をもてなすまちづくりや景観づくりを進めていると聞いています。

そこで、伺いたいします。「おもてなしのまち成田」を掲げる成田市として、どのようなことに力を入れているのか。また、具体的にどのような景観づくりを考えているのか、お答え願います。

○議長（大木颯士議員） 伊藤シティプロモーション部長。

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で起立〕

○シティプロモーション部長（伊藤善光） 長岡綾汰議員の「おもてなしのまち成田」を掲げる成田市として、どのようなことに力を入れているのかとのご質問にお答えいたします。

本市を訪れる国内外の観光客が適切な観光情報を得られ、快適に過ごすことができるよう、観光案内所や成田観光館、空の駅さくら館などの観光施設においてイベントなどの観

光情報を提供しております。

また、訪日外国人観光客に対するおもてなしの取り組みとして、生け花や茶道、書道などが体験できる「日本の香りをあなたに」を、成田ユネスコ協会の協力で毎月1回開催しているほか、成田市観光協会では、茶道や着物の着付け体験ができる「ティーセレモニー」を毎週1回開催しております。

さらに、成田市観光協会ホームページ「F E E L 成田」で日本語、英語、中国語の繁体字・簡体字、韓国語、タイ語の6言語での情報発信を行っているほか、表参道を中心とした8か所に設置した案内看板について、多言語での表記を行い、さらにピクトグラムを用いて、外国人観光客にも分かりやすい案内表記を行っております。

今後も、より質の高い「おもてなしのまち成田」を目指し、成田を訪れた観光客が快適に過ごせる観光地づくりを進めてまいります。

○議長（大木颯士議員） 山崎都市部長。

〔都市部長 山崎勲 自席で起立〕

○都市部長（山崎勲） 具体的にどのような景観づくりを考えているのかとのご質問にお答えいたします。

本市では、市全域を景観法に基づく景観計画区域と定め、「未来へつなぐ 自然と歴史と世界が交流する成田の景観づくり」を基本目標として、良好な景観の保全や育成、創出に取り組んでおります。

その中でも、本市の観光の拠点である、成田山新勝寺表参道周辺地区を景観形成重点地区に指定し、建築物の高さや色彩など、独自の景観形成基準を定め、成田山への眺望を妨げないようにするなど、多くの方々が訪れる日本遺産にも認定された門前町として、おもてなしの心を大切にし、魅力的な景観づくりに努めているところであります。

このように、良好な景観の保全及び形成を図り、市内の多様な景観資源の価値を高め、市民が誇りと愛着を持てる景観が未来へ継承されるよう、引き続き取り組んでまいります。

○議長（大木颯士議員） 長岡議員。

〔吾妻中学校 長岡議員 自席で起立〕

○長岡綾汰議員 ご答弁ありがとうございます。私は、成田市がにぎわいのある街だから

こそ、毎日楽しく生活できていると感じています。これも成田市の良さの一つであると思っています。私は、これからを生きる成田市民として、成田市の良さや良いところを広め、持続させていきたいと感じています。

そして 10 年後、20 年後の成田をもっと発展させていきたいとも思いました。中学生議会で学んだことを私たちのこれからの日常生活や学校生活に生かしていきます。

これで吾妻中学校からの質問を終わります。

(午後 3 時 01 分)

●中台中学校

○議長（大木颯土議員） 次に、中台中学校 沼田悠叶議員及び佐藤沙奏議員。

〔中台中学校 議員 2 名 登壇〕

○沼田悠叶議員 私は、中台中学校 2 年の沼田悠叶です。

成田市の防犯・安全対策についてお伺いいたします。

私は、登校中の生徒に気付かない車が、突然飛び出し、ぶつかりそうになったところを見かけたことがあります。他にも、車両だけでなく、歩行者側の行動にも「危ない」と感じる出来事が何度かありました。こういった不注意等による、いわゆる「ヒヤリハット事例」が、重大な事故につながる可能性があると思います。

そのようなことが起きないようにするために、生徒の登下校中の交通事故防止について、市としてどのような取り組みをしているのか、お伺いいたします。また、私たち中学生にもできる対策や、気を付けていく必要があることについて、教えてください。

以上で質問を終わります。

○議長（大木颯土議員） 関川教育長。

〔教育長 関川義雄 登壇〕

○教育長（関川義雄） 沼田悠叶議員の登下校中の生徒の交通事故防止の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

まず、本市の取り組みについてであります。成田市通学路交通安全プログラムを策定し、毎年危険箇所の調査を行っているところであります。PTA や地域住民、交通管理者や道路管理者などの関係機関が現地で危険箇所の確認を行う通学路合同点検を実施し、実態

把握に努め、成田市通学路安全推進連絡協議会では、関係機関や成田市 PTA 連絡協議会、成田市校長会とともに安全対策について協議し、各学校での交通安全指導に役立てているところであります。

昨年度における小中学校の通学路の危険箇所改善要望については、学校、PTA から 156 件の改善要望をいただいております。これらの対応については、成田市通学路安全推進連絡協議会において、各機関に対して横断歩道の設置や注意喚起の路面標示、看板の設置、除草や樹木の伐採などの改善を働きかけるとともに、以前から継続して要望が上がっている箇所については、関係機関と情報を共有し、全体の 42 パーセントが整備済みであり、今後も危険箇所の改善に努めてまいります。

教育委員会といたしましては、成田市通学路交通安全プログラムに基づき、引き続き危険箇所の把握に努めるとともに、事故報告の大半を占めている自転車と自動車の接触事故の防止につきましては、関係機関と連携の上、家庭の協力を得ながら啓発を図り、学校で行う安全指導についても継続して実施することで、児童生徒の登下校時の安全が確保されるよう取り組んでまいります。

次に、中学生にもできる対策は、とのことでありますが、中学生に限らず誰もが基本的な交通ルールやマナーを守ることがもちろん、自転車に乗る際は、ヘルメットを着用し、横に広がって走行したり、スピードを出し過ぎたりせず、幼児や高齢者などの歩行者に配慮した運転を心がけることが大切だと考えております。また、相手の不注意から事故に遭うことも想定されますことから、日常生活においては、歩きスマホをしたり、音楽を聴きながらの運転をしたりせず、周囲の状況に十分に気を配りながら歩行や、自転車での走行をすることも大切であります。

さらに、中学校での取り組みといたしましては、生徒の委員会活動を生かして、小学校でも作成しているような学区の安全マップを作成したり、本市で開催している交通安全ポスター展に積極的に参加したりすることで、交通安全に対する意識を高めることができるのではないかと考えております。

みなさんには、このような取り組みを実践する中で、交通安全に関心を持ち、自分の命は自分で守るとともに、他者の安全も守る姿勢を身に付けていただきたいと思います。

○議長（大木颯士議員） 佐藤議員。

〔中台中学校 佐藤議員 自席で起立〕

○佐藤沙奏議員 私は、中台中学校 2 年の佐藤沙奏です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田市の不審者出没を知らせるメールが、前年度と比べて多くなっていると感じています。また、本校の生徒が、実際に不審者と遭遇したことも多くあります。

そういった経験により、心に傷を負ってしまい、その人自身の未来にも影響が出てしまう可能性があると思います。他にも、人通りが少なく、死角となる場所があり、危ないと思う時があります。そういった危険が予測される場所に対し、市民を守るために、どのような方法を考えているのか、お答え願います。

○議長（大木颯士議員） 谷平市民生活部長。

〔市民生活部長 谷平裕美 自席で起立〕

○市民生活部長（谷平裕美）

佐藤沙奏議員の危険が予測される場所での防犯対策についてのご質問にお答えいたします。

本市では、人通りが少なく死角となる場所や、不特定多数の人々が利用する公園や緑道、通学路などをはじめとする犯罪が発生するおそれのある場所に重点を置き、市民の皆様のご協力もいただきながら様々な防犯対策を実施しております。

犯罪の発生を防ぐためには、犯罪を行おうとする者に対し、人から見られていると意識させることが効果的であるという観点から、青色回転灯を取り付けた車両による防犯パトロール活動や、不審者の出没情報など犯罪の前兆となる事案があった場所への防犯カメラの設置を行っているほか、暗がりの解消を図ることで死角をなくすため、防犯灯の設置を進めております。

これらの対策のうち、本市では特に、地域における防犯パトロール活動に力を入れており、通学路防犯広報啓発活動や移動えきばん車による巡回を通じて、毎日、市内全域を対象に警戒を行っているほか、各地区や自治会、PTAなどで組織する自主防犯団体においても、積極的なパトロール活動を展開していただいております。今後も市民と市役所、警察署

などの関係機関が協力し合い、犯罪の抑止に努めてまいります。

○議長（大木颯士議員） 佐藤議員。

〔中台中学校 佐藤議員 自席で起立〕

○佐藤沙奏議員 ご答弁ありがとうございました。私は、将来的に語学を学びたいと思っています。そう考えると、成田の町は空港があることで、他の国との関係が深くあり、学ぶためには最適な場所だと感じました。なので、このまち成田で学べることに、とても喜びを感じています。だからこそ、私たち学生が安心して学べる環境を整えて欲しいと感じています。そして、私が今した質問のように、防犯対策により一層力を入れてもらい、充実した成田市にし、私たち中学生が安心して学ぶことに専念でき、成長できるまちづくりをお願いしたいと考えております。

これで中台中学校からの質問を終わります。

（午後 3 時 11 分）

●公津の杜中学校

○議長（大木颯士議員） 次に、公津の杜中学校 辻宇心議員及び山本晃史議員。

〔公津の杜中学校 議員 2 名 登壇〕

○議長（大木颯士議員） 辻議員。

○辻宇心議員 私は、公津の杜中学校 2 年の辻宇心です。

成田市の持続可能で地球環境に優しいまちづくりについてお伺いいたします。

現在、地球規模で様々な環境問題があると言われており、持続可能な社会を作っていくことが重要な課題となっています。そこで、私は、成田市における脱炭素化に向けた取り組みについて質問させていただきます。

現在では日本だけでなく、世界中で脱炭素社会を目指していると思います。脱炭素社会を世界中で目指している理由に、二酸化炭素排出による地球温暖化や海水の海面上昇、温度上昇、氷河や氷床の融解など、様々な問題が発生してしまうためだと私は考えています。

こういったことを防止するために、成田市ではどのような取り組みをされているのか。また、今後どのように脱炭素社会を目指していくお考えか、お聞かせ願います。

以上で質問を終わります。

○議長（大木颯士議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 辻宇心議員の持続可能で地球環境に優しいまちづくりについてのご質問にお答えいたします。

本市における脱炭素化に向けた取り組みについてありますが、地球温暖化問題は世界規模での対応が求められている課題であり、本市におきましても地球温暖化に向き合う姿勢を示すため、令和 2 年に、2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を表明いたしました。

これを踏まえて、昨年 7 月に策定した成田市地球温暖化対策実行計画 区域施策編においては、市内の二酸化炭素排出量を基準年度である 2013 年度と比較して、中期目標として 2030 年度に 46 パーセント削減し、長期目標として 2050 年度に実質ゼロにするとしております。

これまでの主な取り組みとしましては、太陽光発電システムやリチウムイオン蓄電池、電気自動車などの住宅用省エネルギー設備に対する補助を実施しており、本年度は、集合住宅用の電気自動車充電設備を新たに補助対象設備に加え、市内における脱炭素化の取り組みを進めております。

また、本市が一事業者の立場で脱炭素化に取り組む行動指針として、成田市役所エコオフィスアクションを策定し、これに基づき照明の LED 化などによる省エネルギーと太陽光発電などにより作り出したエネルギーを組み合わせ、建物における実質エネルギー消費ゼロを視野に入れながら公共施設の整備を進めるほか、市で使用する自動車を新しくする際には、原則、電気自動車等の環境に配慮した車を導入するなど、率先して二酸化炭素排出量の削減に取り組んでおります。

今後につきましても、成田市役所エコオフィスアクションに基づき脱炭素化を率先して推進していくことはもとより、市民や事業者においても脱炭素型ライフスタイルへの転換や、環境に優しい事業活動の普及を促すことなどにより、環境保全を図りつつ、経済と社会の持続的発展に役立つ取り組みを進めることで、環境と経済の好循環を生み出しながら、市民・事業者の皆様と共に脱炭素社会の実現を目指してまいります。

○議長（大木颯士議員） 山本議員。

〔公津の杜中学校 山本議員 自席で起立〕

○山本議員 私は、公津の杜中学校 3 年の山本晃史です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私が成田市の「成田富里いずみ清掃工場」について調べていたときに、ごみ処理場についての疑問が生まれたので、お伺いいたします。

ごみ処理場のデメリットとして、ボイラー水管の腐食で蒸気条件を上げることができないため、発電効率が低いとされていました。そこで、私は、成田市のごみ処理場は 2012 年から供用が開始されているので、少なからず腐食が進み、発電に影響が出ているのではないかと考えたのですが、実際にどのくらいの影響が出ているのでしょうか。

また、環境に配慮したごみ処理場の機能として、他にもどのようなことを実施されているのか、お聞かせください。

○議長（大木颯士議員） 岩沢環境部長。

〔環境部長 岩沢宏樹 自席で起立〕

○環境部長（岩沢宏樹） 山本晃史議員のごみ処理場の機能についてのご質問にお答えいたします。

まず、成田富里いずみ清掃工場のボイラー水管の劣化による発電への影響についてですが、清掃工場では毎年、計画的に点検を行うとともに、設備によっては 2 年に 1 度、専門家による法定点検を行っておりますが、「ボイラー内に通したパイプを加熱し、水から蒸気を発生させる仕組み」、いわゆる「ボイラー水管」の腐食は、現在のところ確認されておらず、発電への影響はございません。

なお、劣化が確認された場合には、修繕や交換を行い、発電に影響のないように対応してまいります。

次に、環境に配慮した機能についてであります。ごみの溶融熱を利用した発電によりエネルギーの回収を行っているほか、溶融したごみから金や銀などの貴金属を回収したり、最終的に生成される砂状の物質を道路の材料としたりするなど、資源の再利用を図っております。

また、これらの機能のほかにも、工場から排出される水や煙の無害化はもとより、水については工場内で循環して再利用するなど、様々な面で環境に配慮しております。

○議長（大木颯土議員） 山本議員。

〔公津の杜中学校 山本議員 自席で起立〕

○山本晃史議員 ご答弁ありがとうございました。私たち市民が生活していく中でもよく耳にする、環境に配慮するということとは、一見離れたように思えるごみ処理場でも、環境に配慮した機能があると知れてよかったです。私はそんな特性を生かした成田市にこれからも住みたいと思いました。

私たち市民 1 人 1 人も、環境に配慮した行動を積み重ねていくことが大切だと思います。学校でもそういった行動ができるようにしていきたいと思います。

これで公津の杜中学校の質問を終わります。

（午後 3 時 19 分）

●大栄みらい学園

○議長（大木颯土議員） 次に、大栄みらい学園 椿壮馬議員及び長竹将大議員。

〔大栄みらい学園 議員 2 名 登壇〕

○椿壮馬議員 私は、大栄みらい学園 8 年の椿壮馬です。本日は、この様な機会を設けていただき、ありがとうございます。

成田市のスポーツをする機会の提供について伺いいたします。

大栄地区は、成田市の東に位置し、農村地帯が広がるのどかな地域です。平成 18 年に成田市内に合併した時の人口は約 1 万 3 千人、現在は約 1 万人と 3 千人も減少しております。人口減少の原因を自分なりに考えてみたところ 2 つ答えが出ました。

1 つ目は、少子高齢化による人口減少、2 つ目は、大栄地区に魅力を感じなくなり、若者が地元から離れてしまったことによるものと思います。

そこで、大栄地区にスポーツができる公園などを設置することを提案します。

ニュータウン地区や遠山地区の公園には、バスケットゴールが設置され、ストレッチやトレーニングができる設備が設置されていますが、大栄地区には子どもたちが遊ぶ遊具があっても、スポーツやトレーニングができる設備が設置されている公園がありません。

スポーツができる公園などを設置することにより、子どもたちが集まり、大栄地区の魅力も感じ、高齢者の健康増進に寄与すると考えます。ぜひ、大栄地区にスポーツができる公園などを設置していただきたいと思いますが、市の考えをお答え願います。

以上で質問を終わります。

○議長（大木颯土議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 椿壮馬議員の大栄地区へのスポーツができる公園などの設置についてのご質問にお答えいたします。

大栄地区につきましては、グリーンウォーターパークをはじめ7か所の公園のほか、スポーツ施設として、大栄野球場、大栄 B&G 海洋センター、前林及び大須賀運動施設などがあります。

運動公園を除く都市公園に、バスケットゴールやシューティングボードなどの施設を設置する際には、他の公園利用者の安全確保や近隣にお住まいの方々の日常生活に配慮することを基本としております。また、ストレッチやトレーニングができる健康遊具の設置につきましては、老朽化に伴い施設の改修が必要となった際に、利用状況やニーズを総合的に勘案し、設置しております。

現在のところ、大栄地区におきましては、スポーツができる公園などの設置や既存の施設を改修する計画はありませんが、グリーンウォーターパークでは、敷地を拡張し、整備を進めておりますことから、その中で、気軽に運動が楽しめる施設の設置についても検討してまいります。

また、本市では、より身近な公園でボール遊びがしたいという子どもたちのニーズを受け、本年2月から、一部の公園において「もっとボール遊びができる公園」事業を試験的に開始したところであります。実施にあたりましては、地域のご意見も伺いながら、公園内の一部の区域に限定し、硬いボールの使用を除いて、バットやラケットを使用したボール遊びができる場所を確保したものであり、大栄地区でも、大栄公民館に隣接する「ふれあいの丘街区公園」において、本事業の実施を検討しているところであります。

今後も、地域の皆様のご意見などを取り入れ、身近にスポーツを楽しみ、快適に利用で

きるような公園やスポーツ施設の整備、維持管理に努めてまいります。

○議長（大木颯土議員） 長竹議員。

〔大栄みらい学園 長竹議員 自席で起立〕

○長竹将大議員 私は、大栄みらい学園 8 年の長竹将大です。ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私は、大栄地区にはスポーツに関するイベントが少ないと感じています。

成田市の都市部では、スポーツイベントが多くあり、スポーツをする場も多くありますが、大栄地区では、身近に参加できるスポーツイベントが少ないため、スポーツをする機会が減っていると思います。そこで、大栄地区にスポーツイベントを増やしたいと考えていますが、市としてどのように考えているのか、お答え願います。

○議長（大木颯土議員） 伊藤シティプロモーション部長。

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で起立〕

○シティプロモーション部長（伊藤善光） 長竹将大議員の大栄地区でのスポーツイベントの実施についてのご質問にお答えいたします。

大栄地区に、スポーツイベントを増やしていただきたいとのことではありますが、本市のスポーツイベントの取り組みといたしましては、全国から多くのマラソン愛好家が参加する成田POPラン大会をはじめ、多彩なスポーツ体験ができる成田スポーツフェスティバル、アメリカのナショナルコーチとトップアスリートを招いての陸上クリニックなど、様々なスポーツイベントを開催しております。

また、東京 2020 パラリンピック競技大会におけるアイルランドパラリンピックチームの事前キャンプ受け入れを契機に、スポーツを通じて共生社会に対する理解を深めていただくため、令和4年度から毎年、8月18日から8月24日までを共生社会ウィークと位置づけ、ウィーク期間中にはパラスポーツ体験会やパラスポーツ競技のパネル展示など、様々なイベントを実施しております。このような本市独自の取り組みが評価され、昨年3月には、自治体単独として全国で初めてスポーツ庁長官表彰を受賞いたしました。

大栄地区では、大栄B&G海洋センターにおいて、毎年、水泳教室やヨガ教室などが開催されているほか、体育館を改修した際には、バレーボール元日本代表選手を講師として

招き、市内中学生向けのバレーボール教室を開催いたしました。

また、大栄野球場においては、マラソン大会や、イースタンリーグ公式戦、全日本女子硬式クラブ野球選手権大会が、毎年開催されているほか、これまでに、WBS C世界女子ソフトボール選手権大会や、インターミディエットアジア太平洋中東リトルリーグ選手権などの世界大会も実施されており、多くの方々に観戦いただいたところでございます。

今後につきましても、引き続き市民の皆さんがスポーツに触れることのできる機会の創出に努めるとともに、大栄地区において身近に参加できるスポーツイベントの開催について検討してまいります。

○議長（大木颯士議員） 長竹議員。

〔大栄みらい学園 長竹議員 自席で起立〕

○長竹将大議員 ご答弁ありがとうございました。私たち大栄みらい学園では、成田市をより良くするために、スポーツをする機会の提供について考えてきました。

成田市のスポーツ施設や、イベントなどに参加することで、スポーツへの関心を持つ機会が増え、より多くのスポーツに触れることで、スポーツへの関心が深まると思います。

これで大栄みらい学園からの質問を終わります。

（午後 3 時 29 分）

●成田高等学校附属中学校

○議長（大木颯士議員） 次に、成田高等学校附属中学校 笠島唯仁香議員及び寺崎鈴華議員。

〔成田高等学校附属中学校 議員 2 名 登壇〕

○議長（大木颯士議員） 笠島議員。

○笠島唯仁香議員 私は、成田高等学校附属中学校 2 年の笠島唯仁香です。成田市の観光による魅力的なまちづくりについて伺います。

成田市は、成田国際空港や成田山新勝寺などの観光地が多くあり、国内外問わず多くの観光客が訪れる、とても魅力的な都市です。

一方で、現在、新型コロナウイルス感染症による移動制限が緩和され、また、昨今の円安も相まって、海外からの外国人観光客が増えた影響により、全国の観光地では、訪問客

の著しい増加に伴って引き起こさせる悪影響、オーバーツーリズムが問題となっています。

そこで、伺いたいします。現在の成田市のオーバーツーリズムの事例は、他の観光地と比べて比較的少ないと感じているのですが、実際にそのような事例は報告されているのでしょうか。また、取られている対応策がありましたらご教示ください。

以上で質問を終わります。

○議長（大木颯士議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 笠島唯仁香議員の観光による魅力的なまちづくりについてのご質問にお答えいたします。

本市のオーバーツーリズムに係る現状と対策についてであります。訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着きを見せたことにより、昨年4月に入国制限などの水際措置が撤廃されて以降、急回復を遂げており、多くの観光地でにぎわいを取り戻している一方で、一部の地域においては、外国人観光客の急増が交通機関の混雑や交通渋滞、マナー違反など地域の市民生活や自然環境に影響を及ぼし、結果として旅行者の満足度も低下させる状況が発生しております。

これに対処するため、国において昨年10月に、観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現するため、「観光客の集中による過度の混雑やマナー違反への対応」、「地方部への誘客の推進」、「地域住民と協働した観光振興」の3つの施策を柱とする、オーバーツーリズム対策への総合的な支援策を示した「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」が取りまとめられたところであります。

本市では、観光需要の急速な回復に伴い、外国人観光客は増加しているものの、現状において、オーバーツーリズムが発生している状況ではないと認識をしております。

その上で、オーバーツーリズムを未然に防ぐため、成田観光館において観光庁作成の外国人観光客向けのマナー啓発動画を放映するなど、外国人観光客に日本のマナー・文化・風習への理解を促すための取り組みを行っております。

今後も、市内に宿泊する外国人観光客に対して、宿泊事業者など観光関連事業者と連携

しながら、日本のマナーや文化についての理解を促すための取り組みを進めてまいります。

○議長（大木颯土議員） 寺崎議員。

〔成田高等学校附属中学校 寺崎議員 自席で起立〕

○寺崎鈴華議員 私は、成田高等学校附属中学校 2 年の寺崎鈴華です。ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私は、成田市をさらに魅力的なまちにするためには、市民をさらに増やすことが必要だと考えます。成田市の人口ピラミッドを見てみると、子育て世代の方の人口が少ないように思いました。そこで、観光に来た方に成田市に住んでもらうために市が行っている取り組みがあればお答え願います。

○議長（大木颯土議員） 石毛企画政策部長。

〔企画政策部長 石毛直樹 自席で起立〕

○企画政策部長（石毛直樹） 寺崎鈴華議員の観光で成田市を訪れた方が、成田市に住んでもらうための取り組みについてのご質問にお答えいたします。

本市には、日本の空の玄関である成田空港や千年以上の歴史を有する成田山新勝寺などがあり、国内外から多くの観光客が訪れております。また、成田祇園祭、成田太鼓祭、成田伝統芸能まつり、成田弦まつりなど、一年を通して魅力ある様々な観光行事を開催するとともに、観光キャラクターのうなりくんを活用し、各種イベント等で情報の発信を行うなど、観光を通して本市の魅力について積極的にPRを行っております。

そのような中で、観光をきっかけに本市に関心をお持ちいただいた方が、本市に住みたいと思っただけのように、結婚から妊娠・出産・子育て・教育まで切れ目のない支援体制の充実を図るなど、若者や子育て世代が安心して子どもを産み育てられるまちづくりを推進しております。

また、より本市の魅力を感じていただけるよう、都内において仕事と暮らしをテーマとした「成田市移住セミナー」を開催するほか、若者や子育て世代向けに本市の魅力を紹介したPR動画を 유튜브 に配信するなど、移住促進に向けた取り組みも進めております。

あわせて、本市の新たな雇用の創出を図るため、物流や空港関連産業など成田空港周辺地域の持つポテンシャルを生かした企業の誘致を促進するとともに、新たな住宅用地の形

成やニュータウン地区の再整備などにより、居住環境の整備に取り組むなど、「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち」づくりを実践していくことで、本市への定住促進に向けた施策を展開してまいります。

なお、本市の魅力を紹介したPR動画は大変好評であり、多くの再生回数を数えておりますので、是非ご覧いただければと思います。

○議長（大木颯土議員） 寺崎議員。

〔成田高等学校附属中学校 寺崎議員 自席で起立〕

○寺崎鈴華議員 ご答弁ありがとうございました。私たちの住んでいるこの成田という街は歴史のあるとても素敵な街だと考えております。そのため、国内外問わずたくさんの方が成田に観光に来られると思います。そのとき、成田で子育てをしたいと思ってもらえるような街にしていくため、中学生ながらできることをやっていきたいと思います。

個人的に私は放送部に所属しているので、それを生かして、放送で成田の魅力を発信していきたいと思います。

これで成田高等学校附属中学校からの質問を終わります。

（午後 3 時 38 分）

●玉造中学校

○議長（大木颯土議員） 次に、玉造中学校 勝田智稀議員。

〔玉造中学校 議員 1 名 登壇〕

○議長（大木颯土議員） 勝田議員。

○勝田智稀議員 私は、玉造中学校 2 年の勝田智稀です。

成田市の防災対策について、お伺いいたします。

昨年、全国各地で、台風による豪雨のため、停電や洪水が起こり、甚大な被害を受けました。停電や洪水が起こってしまった場合には、早急に対応しなければならないと思いますが、市では、どのような対策をされていますか。また、こういった被害が出た場合、その後の対策の方針などは、どのように変更をしていくのでしょうか。

今後、天候不順による豪雨や洪水などの被害を最小限に防ぐ手立てについて、市としてどのような取り組みを考えているのか、お聞かせ願います。

以上で質問を終わります。

○議長（大木颯土議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

○市長（小泉一成） 勝田智稀議員の豪雨による停電や洪水への対策についてのご質問にお答えいたします。

まず、災害発生時に迅速に対応するための対策についてであります。停電への対策として、本市では、電線や道路などの重要インフラ施設の周辺において、地権者の同意を得ながら樹木を伐採し、倒木を原因とする停電の未然防止に努めております。

また、電気事業者である東京電力パワーグリッド株式会社においても、倒木を原因とする停電の未然防止に努めていただいております。

さらに、災害発生時に迅速な電力復旧が行われるよう、東京電力パワーグリッド株式会社と協定を締結し、障害物の除去などに関する相互協力、情報共有、電源車の配備などについて、体制整備を進めております。

また、道路冠水や洪水などへの対策として、建設業者と年間委託契約を締結しているほか、市内の建設業者で構成する成田市建設業災害対策協力会と協定を締結しており、災害発生時の迅速な道路の復旧や安全確保が図れる体制づくりに努めております。

次に、豪雨などによる被害を最小限に防ぐための今後の取り組みについては、道路などの冠水や浸水が頻繁に発生している箇所に対する、雨水管や雨水調整池の整備、側溝の清掃などをはじめとし、河川では、流下能力を高めるための護岸整備や河川内に蓄積した土砂の撤去を計画的に実施しております。

また、土砂崩れのおそれがある危険な崖地に対しては、被害が想定される家屋の件数など要件を満たした崖地に対し、県や市が崩壊対策工事を実施するほか、個人が行う崖地整備工事への市独自の補助制度により個人負担の軽減を図る取り組みを行うなど、引き続き、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

○議長（大木颯土議員） 勝田議員。

〔玉造中学校 勝田議員 自席で起立〕

○勝田智稀議員 ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田市は日本最大の流域面積を誇る利根川に面しています。近年のゲリラ豪雨などの異常気象に備えて、市内の河川などの氾濫で浸水が予想される範囲を示したハザードマップが作られているのは存じ上げていますが、ハザードマップを作る際に、どのような工夫をこらしているのか、お伺いいたします。

○議長（大木颯土議員） 野村総務部長。

〔総務部長 野村吉男 自席で起立〕

○総務部長（野村吉男） ハザードマップについてのご質問にお答えいたします。

成田市防災ハザードマップは、お住まいの地域の災害リスクなど必要な情報を知っていただくために、昨年２月に成田市内全域の各ご家庭へ配布を行いました。

この防災ハザードマップには、洪水や土砂災害などの災害危険区域、避難所の位置を明示するほか、風水害、火災、地震に備えるための防災情報を１冊に掲載しております。

作成時の工夫としましては、避難所までの避難経路、備蓄品及び非常時持ち出し品、非常時の連絡先などの情報を書き込めるようにしたことで、「自分や家族のハザードマップ」としてご利用いただけるとともに、ハザードマップをより見やすくするために色分けや記号を工夫し、誰でも危険箇所や避難経路が分かり易いデザインとしております。

これからは、台風などによる出水期になりますので、ぜひご家族でハザードマップをご覧いただき、万が一に備えていただければと考えております。

○議長（大木颯土議員） 勝田議員。

〔玉造中学校 勝田議員 自席で起立〕

○勝田智稀議員 ご答弁ありがとうございました。成田市には、多くの外国の方が行き来する日本の玄関成田空港があります。そのため、私たちはいろいろな文化に触れる機会が多くあると感じますが、もっと気軽に外国の方と仲を深める交流会を開いたりしたら、英語に苦手意識を持たず、英語を楽しく学ぶことができ、言語の壁を越え、困ったことがあったら、お互いに助け合うことができる今よりもっと魅力的な成田市に私はしていきたいです。

これで玉造中学校からの質問を終わります。

（午後３時４６分）

○議長（大木颯士議員）　これで、全ての代表質問が終了しました。

（午後 3 時 47 分）

◎市長の講評

○議長（大木颯士議員）　ここで、小泉市長から講評をお願いいたします。小泉市長。

〔市長　小泉一成　登壇〕

○市長（小泉一成）　中学生議員の皆さん、大変お疲れさまでした。皆さんからの質問に対し、全ての答弁が終了いたしましたので、私から「講評」を述べさせていただきます。

本日、皆さんからいただいた質問は、市制施行 70 周年記念の基本テーマである「人を繋ぐ 歴史を繋ぐ 未来へ繋ぐ みんなの成田」に関連する、本市のさらなる発展に向けてのまちづくりへの提言や、本市が直面する交通バスの減便、耕作放棄地等の課題、国際空港を擁している、本市ならではのトランジットツアーや外国人観光客、拡充英語の取り組みのほか、脱炭素化などの持続可能で地球環境に優しいまちづくりに関する質問など、様々な視点からの的確な質問で、本当にすばらしい内容であったと思います。

また、堂々と質問・発言している姿は大変立派で、とても感心いたしました。皆さんが本市の未来について、一生懸命に考えているという熱意が伝わり、大変うれしく、同時に心強く思っております。それだけに、私や教育長、各部長も全力で答弁をさせていただきました。

皆さんからいただいた貴重な質問や提言は、今後も、私がモットーとしております『住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた』の実現に向けて、大いに反映をさせていただき、また、今後の本市の発展のために役立ててまいりたいと思っております。

本日、皆さんは自分の意見を述べるだけでなく、他の中学生の質問や意見にも耳を傾け、市からの様々な答弁も聞いていただき、見聞が広がったことと思います。どうか本日の経験を、これからの学校生活や、今後の人生にいかしていただき、大きく成長されることを期待しております。そして、本市がより住みやすくなるよう、皆さんと一緒に考えていければ、大変うれしく思います。

そして、次はぜひ市長として、また議員として、あるいは職員として、この議場に戻っ

ていただくことを強く願い、期待しております。

結びにあたりまして、本日はお忙しい中、傍聴していただきました保護者の皆さん、そして、この中学生議会の開催に協力していただきました学校関係者の皆さん、議員各位の皆様方のご協力に心から感謝を申し上げまして、講評といたします。

中学生議員の皆さん、あらためて本日は大変お疲れさまでした。

(午後 3 時 49 分)

◎閉会の宣告

○議長（大木颯土議員） これをもって、今議会の日程は終了いたしました。

以上をもちまして、「成田市制施行 70 周年記念 令和 6 年度成田市中学生議会」を閉会いたします。ご協力いただきありがとうございました。

(午後 3 時 50 分)